

授業科目名・形態	看護コミュニケーション 講義	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	黒澤 繭子	実務経験の有無	有	開講期	2年後期

【授業の主題】

コミュニケーション技術は、患者や家族へ望む看護を実践するため、他の看護職者、医療職者、連携する各職者と良好な関係を築くために欠かせない技術である。この授業を通じて自己のコミュニケーション能力を振り返り、看護技術としてのコミュニケーション技術を学習する。

【到達目標】

1. 看護におけるコミュニケーションの特徴と重要性を理解する
2. コミュニケーションの基本的な方法について理解し、実践する
3. コミュニケーションに障害がある人の特徴に応じた対応を理解する

【授業計画・内容】

- 第1回 看護コミュニケーションの特徴
- 第2回 事例を読んで考える
- 第3回 障害に応じたコミュニケーション
- 第4回 看護におけるコミュニケーション上の問題
- 第5回 ロールプレイングとプロセスレコード(1)概要と準備
- 第6回 ロールプレイングとプロセスレコード(2)実施
- 第7回 場面から考える看護コミュニケーション
- 第8回 ロールプレイングとプロセスレコード(3)再実施・評価

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

授業内容に関連した教科書の章にあらかじめ目を通して授業にのぞんでください。また、授業で配布する資料や教科書で復習をし、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

コミュニケーション論、看護過程論

【教科書等】

大森武子、大下静香、矢口みどり：仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス、医歯薬出版株式会社

【参考文献】

茂野 香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 第16版、医学書院、2015
杉本なおみ：医療者のためのコミュニケーション入門、精神看護出版

【成績評価方法】

提出課題（95%）、授業への取り組み姿勢（5%）により総合的に評価する

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

総合病院での臨床看護の経験がある。看護の基礎として重要な知識や技術を習得する上で、具体例など交えることで応用できる考え方を促していきたい。

【学生へのメッセージ】

早期体験実習および基礎看護実習を通して、患者や患者の家族・看護師・医療従事者らとのコミュニケーションは欠かせないものであることを実感できたと思う。この授業では自分のコミュニケーション技術を振り返り、看護技術としての必要なコミュニケーション能力を身につける契機としてほしい。